

『愛の所有』（女性2名）

素舞台にハイチエア2脚（1とはやや異なる配置）と高いテーブル、その上に伝票。バーの設定。（『奪った果てに、何があるかなんて』の数年後）

登場人物…

香織 … 30代女性。会社員。

明日香 … 30代女性。会社経営者。香織とは大学の同級生。

M（アズ・タイム・ゴーズ・バイ）が流れている。香織と明日香がかけている。

香織「なんだっけ、この曲」

明日香「アズ・タイム・ゴーズ・バイ」

香織「そっか」

明日香「興味ないでしょ」

香織「というより。聞き覚えはあるんだけど何だっけって話。

曲名聞いても分かんないやつて思ってた」

明日香「なるほどね。よくバーとかで流れてる。白黒映画の主題歌とかじゃなかった？」

香織「うーん」

明日香「ま、いいけど。どうかした？」

香織「どんな映画」

明日香「え？ 映画？」

香織「うん」

明日香「忘れた」

香織「・・・」

明日香「で？」

香織「ああ。プロポーズされたの」

M（アズ・タイム・ゴーズ・バイ）がカットアウトする。

明日香は驚きが隠せない。

香織は明日香のリアクションに驚きと困惑。

香織「何？」

明日香「いや、よかった、ね」

香織「まあね」

明日香「何か気に入らないの？ 遊び足りない？」

香織「誠治君と付き合ってから遊んでないよ」

明日香「・・・最近シてる？」

香織「当然」

明日香「結婚が嫌？」

香織「いや、結婚したいから付き合ったんだから、そうじゃない」

明日香「そう」

香織「浮気してるんだと思ってて」

明日香「えっ」

香織「明日香彼氏は？」

明日香「え？ あ、まあ、ぼちぼち。彼氏ではない、かな」

香織「彼女？」

明日香「でもない」

香織「セフレ？」

明日香「そうね」

香織「あんなに結婚したいって言ってたのにね」

明日香「やめてよ。こればかりは努力じゃないでしょ」

香織「努力でしょ」

間。

香織「ごめん、何かイライラしてるのかも」

明日香「そんな感じだね」

香織「セフレは彼氏に昇格しないの？」

明日香「相手に聞いてほしい。でも正直、あんまり合わないし」

香織「忙しいもんね」

明日香「いや、あっちがね」

香織「あっちね。明日香わがままだから」

明日香「そんなことない。でもさ、野外で立ちバックしたい、だよ。ばかばかしい。もう、うんざり」

香織「・・・」

明日香「何？」

香織「彼がやりたいっていうなら仕方ないんじゃない？」

明日香「・・・。へえ、言いなりなんだ」

香織「言いなりって」

間。

香織「男はね、征服したいのよ。支配したいの、女を。」

たまには付き合ってもあげても罰は当たらないと思うけど」

明日香「釣った魚はぞんざいに扱うのね」

香織「そうじゃなくて。毎回そうじゃないでしょ？ たまには言うこと聞いてあげないと」

明日香「なら、もし、別の誰かを入れて三人でしたいって言ったら応じる？」

香織「……。応じたことも、あった。誠治君じゃないよ。今は分からない。他人交えてなんて想像したくもない」

明日香「浮気しているかもしれないんでしょ？」

間。

香織「でも、結婚しようって」

明日香「浮気してたら？」

間。

明日香「ね、3Pってどうなの？」

香織「……。どうなのって、まあ私以外の二人の関係性によるよ」

明日香「というと」

香織「例えば誠治君と私、ともう一人だとする。もう一人は完全に道具じゃないと」

明日香「道具!？」

香織「そう。か、皆友だち」

明日香「皆友だち？ 何その状況。絶対どこかできちゃうでしょ」

香織「そう。そうになったら終わり。私はそれ知ったとき吐きそうになった」

明日香「……。へえ」

香織「きつい。ほんと」

明日香「したらその時は男1・女2だったんだ」

香織「そう。女は結局男を選ぶからね」

明日香「……。」

香織「あの場合、どっちが男とくっつくかのゲームみたいなもんだったなって」

明日香「そう」

香織「そっち側じゃん明日香も」

明日香「まあ……。ね」

間。

明日香「この前さ、元カノからLINE来て」

香織「うん？」

明日香「『あなたが結婚したいって言うから私たち別れたわけだけど、結婚した？ カッコワライ』って」

香織「嫌な子」

明日香「そんな子じゃないんだけど。・・・私が悪いから」

香織「そう」

明日香「とりあえず泣いた。なんかつらくて」

香織「すぐ次の女に行ったんでしょ、その子」

明日香「半年。半年でパートナースhip結びました、って。

私さ、あの子と別れてから何年も誰とも付き合えてないんだよね。
するってなったとき決まって思い出しちゃって。泣けてきて。相手も困惑するし。
そんなことも知らずに、ずーっと被害者面してさ、私が悪いみたい」

香織「・・・」

明日香「ぶっこわれたままなのかな」

香織「そんなことない」

明日香「ありがと」

間。

香織「その彼は、今の関係を何て言うの？」

明日香「・・・」

香織「フリー？ 彼女いるの？」

明日香「いるんじゃないかな」

香織「知らないんだ」

明日香「知らなくはない。ただ」

香織「何？」

明日香「私を選ぶかもって、少し思ってた」

香織「なんで？」

明日香「可能性がゼロなら誘わないでしょ」

香織「相手が誘うの？」

明日香「一応」

香織「そうなんだ。でも・・・」

明日香「遊びってこと？」

香織「うん」

明日香「言い切るね」

香織「その彼に彼女がいることを明日香が知ってるって、その彼は知ってるの？」

明日香「ん？」

香織「だから、その彼は明日香とは浮気だってこと隠してないの？」

明日香「うん・・・まあ」

香織「彼女と面識は？」

明日香「・・・」

間。

明日香「まあ、それはそうと。香織どうするの？」

香織「何が？」

明日香「誠治からのプロポーズ」

香織「うけるよ」

明日香「・・・うけるんだ？」

香織「うん。浮気なんてたいした話じゃない」

明日香「・・・強いね」

香織「明日香はダメ？」

明日香「どうかな」

香織「私から誠治君を寝取ろうとして？」

間。

香織「経緯とか聞いたら話すの？」

間。

明日香「・・・誠治に聞けば」

香織「認めた」

明日香「えっ」

香織「なるほどね。大胆。もしかしたらってカマかけたただけなんだけど。

仲いいのは知っているからさ。

紹介してくれたの明日香だっけ？」

明日香「みな子でしょ」

香織「・・・え」

明日香「忘れた？ 大学時代にみな子から私相談されてて色々。

その時に誠治と香織と知り合ったんでしょ。だから誠治とは香織より長いわけじゃない」

間。

明日香「経緯？ 香織が浮気しているかもって、そんな話から」

香織「してない！」

明日香「不安なんじゃない？ みな子とのこともあって」

香織「何年前よ。誠治君が私に乗り換えたんですよ。私の浮気じゃない」

明日香「みな子の存在を知っていてね」

香織「同じじゃない。今のあなたと」

明日香「・・・」

間。

香織「ねえ」

明日香「・・・」

香織「好き？」

明日香「・・・」

香織「私は誠治君が好き」

明日香「浮気されても？」

香織「自分のこと棚に上げないで。

あなたは、誠治君が好きなの？ 寝取ってまで何がしたかった？」

間。

香織「ねえ、好き？」

明日香「誠治を好きになっても、仕方ない」

香織「そうだろうね。明日香は捨てられないもんね」

明日香「何？」

香織「仕事も、好きなことも、何も」

明日香「・・・」

香織「私は捨てられる。仕事も・・・友だちも（詰まる）」

明日香「それができないと何？」

香織「資格がないんじゃない？」

明日香「へえ、えらいんだね。男に選ばれるために何を我慢しなきゃならないのよ」

香織「ほら」

明日香「覚悟がないって言いたいのか？ 私に？」

間。

香織「抱かれてどうだった？」

明日香「聞きたいの？」

香織「話してみなさいよ」

明日香「さっき話したでしょ」

香織「ああ、野外で。だけ？」

明日香「・・・」

香織「そう。やさしい彼を知らないんだ」

明日香「そうかもね。でも」

香織「でも？」

間。

明日香「でも・・・感謝してる」

香織「何それ？」

明日香「彼女と別れてから三年誰とも付き合えてない」

香織「・・・確かにそうだね」

明日香「結婚したいからって振って・・・」

香織「・・・誠治君とできた？」

明日香「できた」

香織「そう」

間。

明日香「好きじゃないよ」

間。

香織「好きじゃない、か。でもセックスできた。いや、した、か」

明日香「俺とならできたりして？ って。

ありかもって思った。期待しちゃって。誰でもいいや。誰でもいいから。なんていうのかな・・・私を治してくれて、思っ

香織「もういい」

明日香「できたのがうれしかった。誠治とは仲いいし、何でも話せて楽。もし香織と付き合ってたなら、って」

香織「ほんとに、もういいって」

明日香「打算的なものだった、ごめん」

香織「打算ね。・・・なら、いいか」

明日香「よかった」

香織「よくないよ」

明日香「ごめん」

間。

香織「でも、誠治君とはもう会わないで」

明日香「それは」

香織「選んで。私か誠治君」

間。

明日香「分かった。誠治とは会わない」

香織「それじゃ結婚式呼べないね」

明日香「・・・」

香織「あなたが悪い」

間。

明日香「誠治は？ 私だけが悪いの？」

香織「誠治君は本能。私は誠治君を失いたくない。
あなたは、自分のためにセックスした」

明日香「そうね」

香織「黙って違うって言い続けてくれたらよかったのに、なんなのよ」

明日香「(小さく) 香織」

香織「でも・・・少し、少しだけ、よかったって思う」

明日香「どうして？」

香織「明日香があんの失恋に、なんていうか、苦しんでて。
それで・・・それが解決、解決なのかな、まあ解決して」

香織立ち上がる。

香織「お手洗い」

明日香「うん」

間。

香織「私も、みな子ちゃんから奪ったんだから。

同じことがあったら何も言えないかもって思ってた。でも誠治君は」

明日香「うん」

香織「ねえ。浮気した人って、繰り返すのかな？」

明日香「結婚するんでしょ？」

香織「うん。でも」

明日香「不安？」

香織「当たり前でしょ」

明日香「そうだよ」

香織「うん」

明日香「でも・・・結婚するんでしょ？」

香織「うん」

明日香「うらやましいよ」

間。M・F・I（アズ・タイム・ゴーズ・バイ）

香織「またこれ」

明日香「おめでとう」

香織「何が？」

明日香「結婚」

香織「ああ。うん」

明日香伝票をとって立ち上がる。

香織「いいよ。私が呼んだんだから」

明日香退場。（誠治とも香織とも絶縁）

香織「しかたないね」

Mが大きくなる。暗転。